

2014年11月21日

(一社) 日本経済団体連合会 御中

(一社) 全国銀行協会 御中

(一社) 電子情報技術産業協会

ECセンター

### 電気電子業界における金融EDIの活用について

拝啓 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

今般のアンケート調査の回答にあたり、以下のとおり補足説明をさせていただきます。

何卒、ご高配のほどお願い申し上げます。

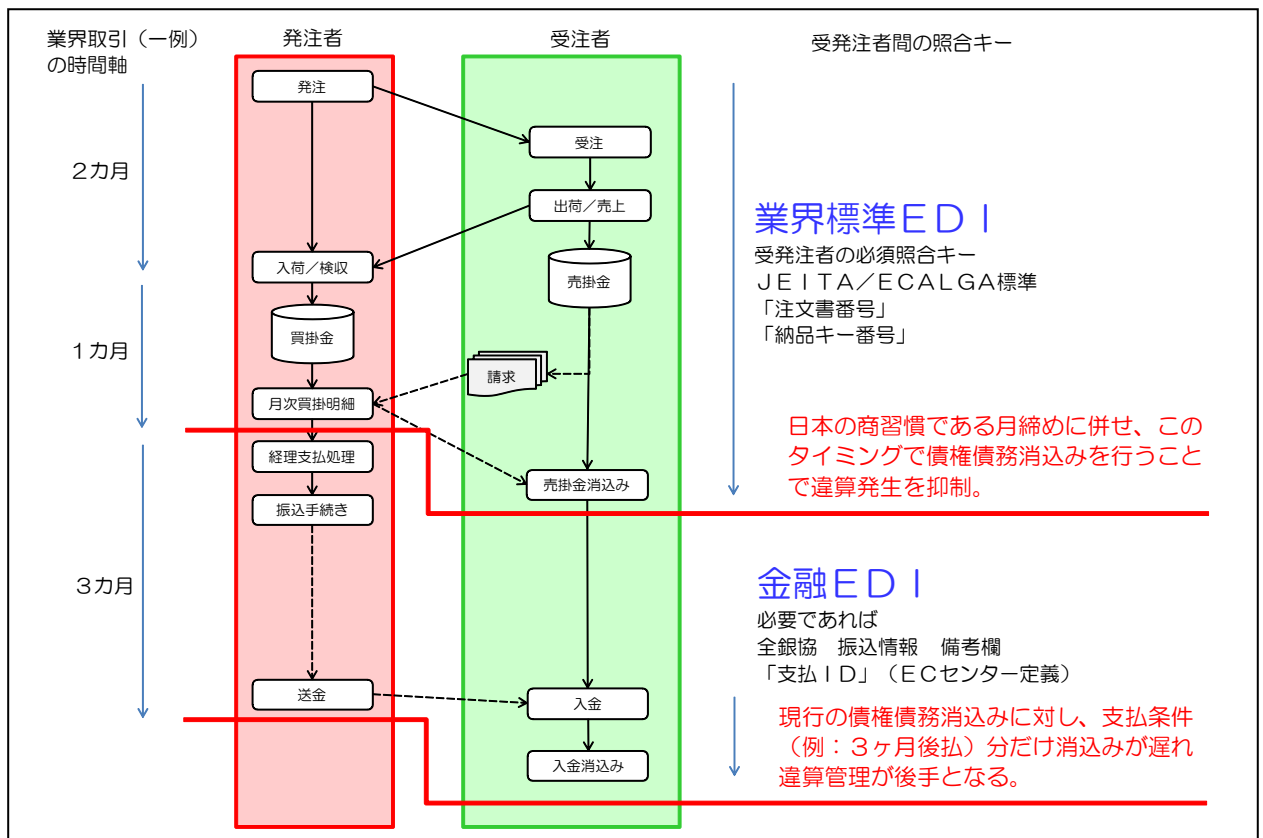
#### 1. 現状の運用（EDIの活用）

電気電子業界では、受発注者双方のWinWin関係目指し、1980年代より業界標準EDIを開発、普及展開してきました。受発注者の債権債務管理、違算発生防止にも早くから取り組み、日本の商習慣である月締めめに即したEDI業務運用ルールを定義しています。これらにより、大手会員企業を中心に消込み業務の自動化（機械化）も早くから実現しています。

#### 2. 金融EDIエンハンス（桁数拡張）に対する見解

今般、全銀協の取り組みとして金融EDIの一部項目桁数拡大を行い、資金管理の効率化を図る動きがある様ですが、下記のビジネスフローにもある様に、金融EDIの時点で債権債務管理を行っている場合は、違算発生の抑制は不可能であると考えます。その様な意味では、金融EDIの一部項目桁数拡大は効率的な資金管理上必須とは考えておりません。万一、これら桁数拡大の対応費用が顧客に転嫁されるのであれば、要する費用に対応する効果が得られるとは思えません。

例えインボイス取引をベースとした海外取引であっても、限りある桁数において全ての取引のキー情報をセットできる訳ではないので、システム・運用双方の負荷が大きくなると考えます。



以上